

昭恵さん 使命感を胸に

事件で安倍晋三・元首相を亡くした妻・昭恵さん(61)はこの1年、国葬や県民葬への参列に加え、選挙の応援演説も行い、慌ただしい日々を過ごしてきた。長く取り組む社会貢献活動に関連する会議にも参加し、「犯罪被害者の家族になり、私だからできることがあるかもしれない」と日々考えている」と打ち明けた。

安全な社会のために

昭恵さんは昨年9月、東京都千代田区の日本武道館で営まれた国葬(国葬儀)に参列した。安倍氏の地元山口県下関市であった同10月の県民葬では、遺族代表として「本場にすばらしい方と多く出会い、豊かな人生だったと思う」と語った。

今年2月には、大阪市内で開かれた公益財団法人・日本財団の「職親プロジェクト」の会議に参加。同プロジェクトは出所者の就労

を支援して更生につなげる取り組みで、昭恵さんは以前からメンバーと交流があったという。この日は出所者を雇用する企業関係者や出所者、刑務所職員ら約170人が集まった。冒頭にあいさつした昭恵さんは「当事者になって深い悲しみを味わい、被害者に支援が届いていない現実も知った。何ができるか考えている」と語った。その後、6人の出所者が

それぞれ支援を受けながら仕事を続ける現状を報告した。耳を傾けた昭恵さんは「犯罪を肯定するつもりは全くありませんが、(出所者の)社会復帰に向けた支援も必要だと思う」と述べた。この会議で、昭恵さんは夫とのエピソードも紹介した。

健康上の理由で2007年に首相を辞めたことについて「批判され、つらい思いをした」と振り返った。その上で、12年の自民党総

裁選前に「負けたら政治生命が終わると言われている。本場に出るの」と尋ねると、「頑張るけど、ダメかもしれない。でも、ここで終わりではない。何度でもチャレンジすればいい」と返事されたと明かした。

この総裁選に勝利し、首

2月に大阪市内で開かれた「職親プロジェクト」の会議であいさつする安倍昭恵さん(左、同プロジェクト提供)



相に振り返った安倍氏について、昭恵さんは「再チャレンジできる姿を社会に示したかったのではないかと語り、出所者を支援する企業関係者を前に「更生のお手伝いもできないか」と思っている。二度と罪を繰り返さない社会を作ることが、安全な社会につながっていくと思うから」と話した。